島嶼学概論Ⅰレポート

水産学研究科 修士１年 真子 隼大朗

硫黄島までは鹿児島市内からフェリーを使って３時間から４時間ほどで到着する。島自体は活火山であり、島の山からは常に噴煙が上がり、周りの海は硫黄と酸化鉄の影響で特徴的な色となっている。かつて硫黄の鉱山があったが、鉱山の閉山以降、島の人口は減り続け、今は 120 人ほどだという。他の離島でもしばしば見られる、若い人が少ない島だという。主な産業は畜産で、島の周りにはよい漁場があるにもかかわらず、港湾設備が整っていない関係でこれをまだ生かすことができてないそうだ。

僕が硫黄島に行くまでに知っていたことはこれくらいだった。２日間の実習で、ただ聞いていて知っていることと、実際に見てみて知ることは違うということを感じた。最初に驚かされたのはフェリーが到着する港の水の色だった。話には聞いていたが、普通じゃなかったのが本当に印象的で、オレンジ色の海を見ることになるとは思わなかった。火山の噴火は桜島の噴火を見ているからそれほど何も感じないだろうと思っていたが、桜島とは違う雰囲気を何となく感じた。

現地での実習を通して、島という場所の大変さ、そして楽しさを少しは知ることができたと思う。海岸にある天然の温泉や、島の多くを占める森を見ていると自然に恵まれた場所なのだと思ったし、島の人が温かく迎えてくれることもすごくうれしかった。ただ、常に自分が欲しいと思った物を手に入れることができない離島という環境の大変さを地元の方から聞いたり、若い人が少ないという問題を耳にすると、ただ楽しそうだからという理由だけで離島に人が住みたいと思うわけではないということを再認識する。

島では今、本土から移住してくる人に対していろいろなサポートをしてくれるようになっているそうだ。また、それ以外にも休みなどを利用して島に来た人に対しても面倒を見てくれる。島という環境で遊んだり、学ぶことは非常に素晴らしことだと僕は思う。

実習では本当にたくさんのことを学び、いろいろなものにふれあうことができた。ジャンベスクールでの体験、島の人との懇談会を通して知った島の生活。噴煙を上げる山を見たり、野生化したクジャクを生で見ること。２日目の朝に個人で釣りに行き、思ってもいなかった大きな魚を釣ることができたのもいい思い出となっている。

なかなか体験することができないからこそ、体験する機会があるのなら、ぜひ他の人にも体験をしてほしい。そう感じた。